

令和3年度 学校評価表

品川区立小山小学校

校長 上田 享志

小山小学校・荏原第六中学校校区教育協働委員会

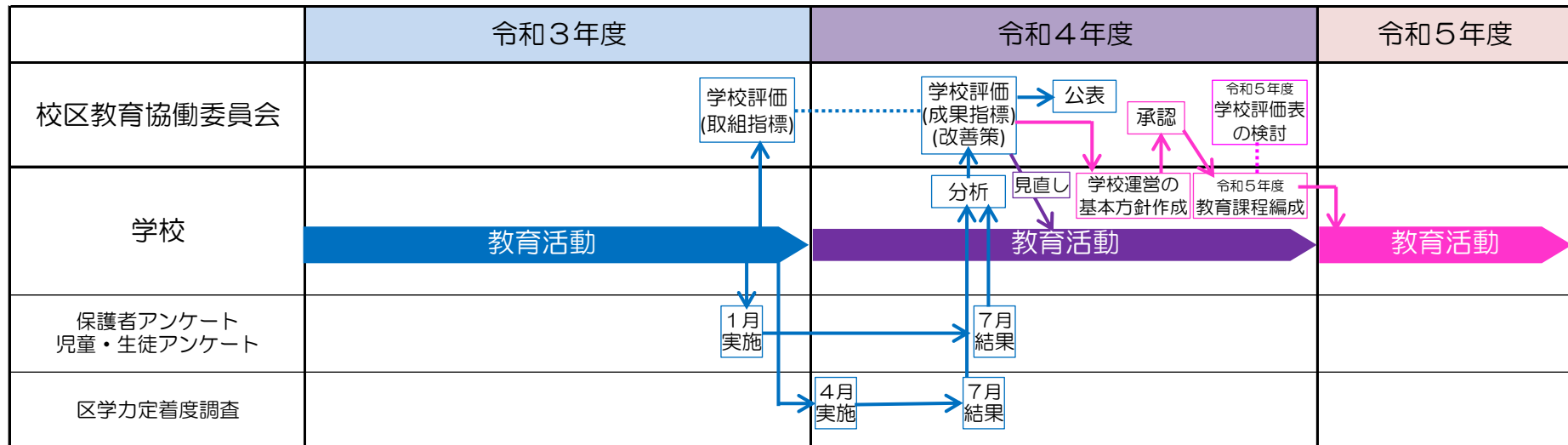
委員長 油布 佐和子

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和2年3月17日 教育長決定 要綱第7号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和3年度の学校評価が令和4年度および令和5年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和3年度 学校評価 品川区立小山小学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		品川区教育要領に基づき、各教科の年間指導計画を進める。 1. 基礎・基本的事項の指導 学習規律を身に付けさせ、分かった・できたと児童が感じられる授業を進め、基礎学力の定着を図る。 2. 発展的な事項への指導 基礎基本の充実とともに、言語活動の充実や思考力・表現力・コミュニケーション能力の伸長に向けての授業改善に取り組む。 3. 指導力の向上 一貫教育を見直し、教材・教具（ICTなど）の工夫をしたりプログラミング的思考を育む指導を行ったりする。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	区の学力定着度調査の各教科の平均正答率75%以上を目指す。	算数に関しては5該当学年中4学年の平均正答率が75%を上回った。理科に関しては、75%を上回る学習分野もあったが、3該当学年とも教科としての平均正答率が75%には達していなかった。	B	・担任や学年が変わっても、学習に向かうための約束について共通理解し、指導をすすめていく。 ・学力向上に関して教科で定着が図られていない内容については、今年度中に繰り返し復習し、定着した状態で進級させる。特に理科は授業の工夫改善を図り学力向上を図る。
	学習規律を徹底させ、学習に向かう姿勢を培う。また、指導方法や指導形態、教材・教具、板書の工夫、ICT（タブレット端末）の活用を行い、学力向上を図る。	今年度は特にICT機器（タブレット端末）を授業で活用することも重視し、学力向上を図ってきた。	B	
②	体験を通し、教科学習での学びがより深まり、学習のまとめへ還元ができる。	これまでの形態通りにはできない体験学習もあったが、できる限り体験学習を実施し、内容理解に深めてきた。	A	・ICT機器、特にタブレット端末の活用により、発言が苦手な児童の考えを取り上げる機会が増えたことは喜ばしい。また、教員が研修会に参加したりICT支援員にサポートしてもらったりしたことで、使い方を学び、児童の思考に合うよう授業改善にも取り組むことができた。今後も活用し、ICT機器とこれまでの指導とがリンクすることで学習効果が得られるようにする。
	校外学習や社会科見学・外部講師による授業等で本物に触れる機会をもつ。	コロナ禍ではあったが、できる限り体験学習を実施することができている。	A	
	読書・ALTやJTEとの英語学習・タブレット端末を用いた学習を通し、思考・表現・問題解決等の力を育む。	読書・人的環境・ICT機器の活用が用いられ、児童の思考や表現しようとする力が付いてきている。	A	
③	小山検定等目標を定め、主体的に学習する姿勢を育む。	小山検定を活用し、学習に目標をもたせ、全員に取り組ませてきた。姿勢を育むことはできた。	B	・放課後や長期休業中、復習の時間を確保し、個別に学習指導を行ってきている。未来塾に関しては、ボランティアを今後もっと増やし、多くの学年の児童が個別に学習に取り組めるようにしたい。
	放課後補習教室等、復習の時間を確保し、基礎基本の徹底を図る。	個別に復習の時間をとるなど、基礎基本の定着を図ってはきたが、今後も継続が必要である。	B	
	品川地域未来塾を活用し、個々の能力に合わせた学習を行わせる。	未来塾の先生方が個別に指導してくださっている。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		小中学校が連携し、「協力し助け合う子」を育てることに取り組む。 荏原第六中学校・第二延山小学校と目指す児童・生徒像を共有し、市民科の学習や生活指導にあたる。 1. 小中で確認した学習規律・生活規律をもとに、確かな学習指導と生活指導を進める。 2. 特に前期1～4年では、「自己管理」「人間関係」を、中・後期5～9年生では「自治的活動」「人間関係」「企画・表現」の能力の伸長を重点とする。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	基本的な生活習慣の徹底を図り、自ら進んで挨拶したり会釈したりする児童が全体の85%を目指す。	基本的な生活習慣の徹底、挨拶等について、まだ指導が十分とはいえない部分があった。とくに挨拶については85%までには至っていない。	B	・挨拶をすすんでできるまでにはまだ至っていないので、継続した指導が必要である。クラスごとに挨拶運動を経験し、挨拶することの気持ちよさを体得できたので、今後は日常化できるよう、さらに指導を重ねる。
	「生活のきまりと育てたい児童像」をもとに、挨拶や礼儀、場に応じた行動などについての指導を教職員で共通理解し、共通指導する。	毎週の目標を掲げ、週番を中心に学校全体で取り組むことができた。	A	
②	市民科授業を計画的に実施するとともに、市民科への理解を深める。	市民科授業地区公開講座やキャリアパスポートを通し、理解を深めてもらうよう計画的に実施し、全体の97%は返信等をいただくことができた。	B	・市民科授業地区公開講座の意見交換会への参加を増やしたい。PTAへの協力要請を今後もしていく。 ・市民科一貫プランについては、感染症拡大防止のため、内容を変更したり一部入れ替えたりしながら行った。変更や入替したところについては、学ぶ機会を保障し、今後状況を見ながら実施できるようにしていく。 ・キャリアパスポートは丁寧に保管することも指導していき、中学校への引継ぎを図る。
	市民科一貫プランを基に市民科授業を進め、保護者や地域に公開し、理解を得られるようにする。	市民科一貫プランに基づき授業を進めているが、感染症の関係で、一部内容を変更しながら実施するものもあった。	B	
	キャリアパスポートを使って、自己実現を目指すようにする。また、学習内容を保護者が確認し共に成長を支えていけるようにする。	キャリアパスポートについては、保護者と連携を図り共に児童の成長を見守りことに努めた。	B	
③	感染症拡大防止に配慮しながら、出来る限りの児童の活動を保証する。	手洗い・手指消毒・マスクの着用・黙食等、対策できることをした。特に黙食については指導の徹底を図った。児童が安心して学習できる場を提供した。	A	・児童集会など、オンラインによる場を設定し、児童の活動の場が閉ざされてしまわないように工夫した。また、縦割り活動等も6年生が主体となり、活動できる範囲でできた。感染症拡大防止に最大限配慮しながらも、児童が「力を発揮した」と感じることで活動の保証を今後もしていく。
	縦割り班活動や小山まつりなどをできる範囲で児童が主体的に進める。	児童が主体的にすすめられるよう、市民科担当を中心に場の設定や時間の設定に配慮した。	A	
	安全教育や危機管理能力を高める指導を継続する。	自分の行動がどのようなことにつながるか、一人一人が考える機会を多くもてるようにした。教職員間で情報を共有し、共通指導をしたい。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		小・中学校が連携し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、体力の向上を図る。「心身ともにたくましい子」を育てることに取り組む。 1. ワンミニッツエクササイズ、縄跳び、持久走週間に積極的に取り組ませる。 2. オリンピック・パラリンピック教育に積極的に取り組み、体力向上を図るとともに、思いやりの心を育てる。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	運動への関心を高め、体力作りをする。	学年や個に応じた場の設定をし、体力向上に努めてきたが、個人差が大きい。	B	・休み時間、体を動かす児童が多い。教室にいる児童にも積極的に外に出て運動するよう声をかけ続ける。 ・ワンミニッツエクササイズに関しては、保護者の協力を今後も得て取り組ませている。また、全校での取り組みを通年で取り組ませるなど、今以上に具体化する。
	縄跳び・持久走・スポーツトライアルに関して推進する。また、ワンミニッツエクササイズを家庭学習でも出すなど、積極的に推奨する。	縄跳び、持久走、スポーツトライアルが、学年に合わせて推進することができた。	B	
②	自分の体への関心をもち、健康な体づくりの意識を高める。	健康な体づくりに向けて、多方面から学習する仕組みを作ることができた。	B	・健康な体づくりをし、心身共にはつらつと毎日を過ごすことができるよう、教科を超えて指導していく。手洗い・マスク・換気など感染症予防については保健便りで家庭への啓発、全校朝会でのオンライン配信など回数を重ね、定着してきた。 ・給食の時間、黙食を指導の機会ととらえ、栄養士が放送や教室巡回で献立、食事のマナーなど指導を継続してきた。今後も続けていく。
	手洗い・うがい・感染症予防等を学習する場の設定をする。また、差別や偏見を許さない指導をする。	朝の会、昼の放送等、全校で共通した学習の場を設定した。	A	
	給食・保健指導、生活科・家庭科等で食や健康な体作りへの関心を高める。	給食時間、栄養士が各教室をまわり、その日の献立についての話や食べ方の指導を行い、児童の食への関心を高めることができた。	A	
③	東京2020オリンピック・パラリンピックに関心をもち、関心をもちたせる。	コーナーを作ったり、放送や授業で話題を提供したりし、関心が途切れないようにできた。	A	・調べ学習にも取り入れるなど、興味や関心をもてるよう手立てを講じることができた。今後も可能な範囲で継続する。 ・ボッチャ体験をするなど、児童が体験することを通し、理解を深められる機会を多く設定するようする。
	パラリンピック競技を観戦したり、体験したりすること、コーナーを設けて紹介することなどを通し、関心をもちたせる。	観戦することはできなかったが、レガシーを伝えたり競技紹介をしたりし、関心をもちたせることができた。	A	
	ボランティアマインド、障害者理解・スポーツ志向・日本人としての自覚と誇り・豊かな国際感覚を身に付けられるような学習活動を構築する。	日常の学習の他に、給食で世界に目を向けさせる動画や放送等工夫できた。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		児童・生徒が自らの命を絶つという事件が発生し、大きな社会問題となっている。小山小はこの事態を深刻に受け止め、教職員一同、改めて問題の重大性を認識し、(1)「いじめ」はどの子どもにも、どの学校にも起こり得るものである事、(2)「いじめ」のほとんどは重大な人権侵害である事、(3)「いじめ」は決して許されない行為である事を理解して、以下の取組を進めていく。 1. いじめの兆候をいち早く把握し、迅速に対応する。 2. 問題や課題について、教育委員会・関係諸機関・家庭・地域と連携して対処する。 3. 人権教育を推進し、問題の未然防止に努める。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童アンケートや日常の観察、教職員の情報共有によって、いじめの早期発見に努め、発見時には組織的な対応をし、再発させない。 児童には、人間関係の作り方を学ばせる機会とする。	生活指導主幹が中心となって情報共有を行い、組織的に行うことができた。	A	・児童の様子について、今後も観察や聞き取り、アンケートをすることで、いじめ・トラブル等の早期発見・早期解決を目指す。 ・生活指導主幹が中心となり、組織的に対応できている。早め早めの報告・連絡・相談、保護者対応を心がけていく。
	「いじめ根絶宣言」「SNSルール」を常に意識させ、いじめのない学校を作る。また、毎週火曜日の情報共有夕会、金曜日の生活指導夕会の他にも日常的に教職員間で情報共有し、組織的な対応を進める。	今年度は生活指導主幹が夕会の司会をしたり、資料提供したりと機能的に動き、組織として対応をすすめてきた。	A	
②	生活アンケートの「友達と仲良くしている」の項目で「そう思う」「どちらかというと思う」の回答を全学年90%以上にする。	全学年90%を超えることができた。	B	・アンケートの結果からも分かるが、児童は友達との関わりを大切にしながら、日々人間関係を学んでいる。児童会活動、人権標語、ポスター作りなど児童に取り組ませ、意識付けを行う。また、日頃からいじめは許されないという姿勢を崩さず教職員は指導に当たる。児童が楽しんで学校生活を送ることができるよう、学校全体で取り組んでいく。
	交流活動を推進することで、児童のよりよい人間関係作りを構築する。縦割り班で行うなかよしタイム等に主体的に児童が取り組む。	制限の中での交流にはなったが、縦のつながりをもつことはできた。	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		小山小学校と荏原第六中学校が連携して、品川区立学校教育の目標の達成を目指す。 1. 一本化した学校便りにおいて、校長の経営方針や小中連携で行っている取組を積極的に家庭や地域に伝える。 2. 荏原第六中学校の生徒の姿から高学年のゴールイメージをつけ、目指す児童の姿へ指導を導く。 ① 進んで学習する児童 ② 協力し助け合う児童 ③ 心身ともにたくましい児童 3. 2校の教員間では目指す児童・生徒像や発達段階ごとに育てるべき事柄について理解し、指導の姿勢を共通のものとしていく。 ※新型コロナウイルス感染症対策で、例年行われている学校行事や小中連携学習は形を変えて実施となる。感染症対策を講じながら、児童の達成感や達成感を醸成できる工夫をしていく。		
評価指標	最上段: 成果指標	最上段: 成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降: 取組指標	2段目以降: 取組指標の達成状況の説明		
①	下学年の手本となる6年生を育て、その姿を見て下学年も成長できる。	コロナ禍ではあるが、折に触れ、6年生が下学年と関わり合いながら成長することができた。	A	・コロナ禍で制限が多かったが、6年生には最高学年として縦割り活動や委員会活動、クラブ活動など、多くの場でリーダーシップをとってもらうことができた。鼓笛隊演奏についてはこれまでの練習の成果を1年1ヶ月ぶりに全校児童に披露する場をもつことができた。6年生に先輩としての責任感や態度などについて、繰り返し指導していく。引き続き、楽器の更新を計画的に行っていくことが課題である。
	6年生全員での鼓笛隊活動、1年生のお世話、縦割り班活動等で6年生の心と力を培う。また、下学年が6年生の言動・行動を見て学ぶ場の設定をする。	鼓笛隊活動、1年生のお世話、縦割り活動等、できる範囲で6年生は最高学年としての意識が育てられた。	A	
②	毎月、荏原第六中学校と一本化した学校便りを作成し、保護者や地域の方に学校の様子を伝える。	毎月できた。校区教育協働委員の皆様からも好評をいただいている。	A	・毎月、学校の様子を学校便りやホームページで発信し、本校の教育活動について理解していただいた。 ・ICT機器や人材を活用することで、今年度以上に全学年がスピーディーにホームページにアップできるようにする。 ・校区教育協働委員会は、状況によってはオンラインでも行い、委員長始め委員の皆様からご意見をいただいた。連携校とは情報を共有し合うことを続けてきている。
	学校便りやホームページ等で、児童の様子を定期的に発信し小山小の教育活動を理解していただく機会をもつ。	ICT委員会やICT支援員とホームページ担当の連携で児童や学校の様子を発信できるようになってきている。	B	
	荏原第六中学校と校区教育協働委員会を共催することで、委員の方からご意見等いただき、連携した教育内容を目指す。また、「品川教育の日」等で小中の教員が情報共有する。	校区教育協働委員会や教職員同士での情報共有により、より両校を理解することができている。	B	
③	開校95周年を迎え、歴史と伝統に思いを馳せ、小山小学校の一員として生活していく態度と心情を養う。	行事等で95周年を位置付け、児童に意識付けすることができた。	A	・児童一人一人が長い歴史と伝統に誇りを持ち、次へつなぐ意識付けを授業でも図っていく。また、小山小は地域へのボランティア活動を通し、地域とともに歩む学校だということ児童へ意識付けたい。 ・PTAと協働し、95周年をお祝いできうれしく感じている。
	PTAと協働し、小山小学校の歴史と伝統を知る機会をもつ。	PTAと協働し、写真撮影や記念集会を行うことができた。また、コヤマンピックや展覧会などにおいて95周年を意識した取り組みを行うことができた。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成